

母から学んだ本当の優しさ



花園中学校3年 堀口 大輔

僕が母と買い物に出かけ、エレベーターに乗ろうとした時、車いすの人が来ました。何も気にせずエレベーターに乗り込むと母は、車いすの人が乗りやすいように、「開」のボタンを押し続けて、乗り込ませてあげました。母は車いすの人に降りる階を聞きながら、「ありがとうございます」と言っていました。そして、「ありがとうございます」と言っていました。その時、僕は「ありがとうございます」と言っていました。

何ヶ月かして、駅前まで、車いすの人がいました。その人は、とても困っている様子でした。それを見た母はどうしたのかと、その人にかけて「何か手伝う事はありますか？」と聞いていました。その人は、「道と歩道の段差があり、うまく上がれず、困っている」と言っていました。僕は母と一緒に車いすを押し上げたけれど、車いすとその人の体重で二人がかりで押し上げるのがやっとでした。その人は「ありがとうございます」と言っていました。

と言いました。少し僕はうれしくなりましたが、うれしかったです。その後、僕は、何故、母が困っている人を見かけると、声をかけるのか不思議に思い、「どうして困っている人に、手伝う事はありますか？」と声をかけるのかと聞きました。すると、母は「高校生の時の話をしてくれました。それは、母が高校生の時、車いすの男の子が入学してきました。その頃の学校には、エレベーターがなかったそうです。一年生のクラスは四階にありました。その子はいつもどうしているのかなと見ていると、階段の下にこの子が来て、どこからか、四、五人の男の子が来て、本人を乗せたまま車いすごと四階まで連れて行ってあげたそうです。それが、一日だけではなく、朝も体育の時間も帰りの時間もいってあげたそうです。その子が頼んでいる様子もないのに、なあと思っていたそうです。普段の教室の移動やスロープの上り降りなどは手伝わなかったそうです。母は、不思議に思い、後輩に理由を聞いてみると、その男の子の母が「できる事は、全てやる、でなければ、社会に出て自立できなくなってしまうから、できるだけ本人にやらせて下さい。ただ階段の上り降りは手伝って下さい。」と言っていたそうです。だから母は、困っている人には必ず「何かお手伝いする事はありますか？」とたずねるそうです。

何年かして、病院へ行った時、車いすの親子がいました。その車には、いろいろな装置が備わっていて、動かすのが大変そうでした。僕は勇気を出して、声をかけてみました。「何かお手伝いしましょうか？」と言ったその子の親は「ありがとうございます。大丈夫です。」少し僕は残念に思いました。けれど、その時、前に母が言っていたことが分かりました。以前、新聞のついでにだけけれど、障害のある人が「障害は決して不幸ではない、ほんの少し不自由なだけ。」と言っていたのを思い出しました。自分勝手な考え方で、その人を心の中で不自由な人にしていただけなんだと思いました。人がほんの少しだけ優しい気持ちで接する事ができれば、もっと住みやすい社会になると思います。僕はそんな社会を作っていきたいと思っています。

夢

なかるべからず

舞台は代え難い空間



柴崎 真理奈 さん

自分自身の投影

舞台上に照らされるライトの絶妙なコントラストを生み出す。それは、役者の心情にも通じ、光である科白の奥にある、

柴崎さんの出演するミュージカル「メアリー・ポピンズ」は、東京吉祥寺の前進座劇場で3月30日(火)・31日(水)に上演されます。

Book

ふかや必読書 30

『木を植えた男』

ジャン・ジオノ



初老の羊飼いは、荒れ果てた大地に1人で木を植えていた。信念を貫くその行動は、2つの大きな戦争の間も続き、中年になった若者が再びその地を訪れた時、不毛の大地はまさに楽園に変身していたのだった。

幡羅小学校5年 奥貫 倫平 さん

感想

ぼくは、この本を読んで、地道に一つのことを何十年もの間、一人で続けた主人公(おじいさん)の精神力のすごさを感じました。何もなかった荒れ地を、もっと明るく平和な山にしたいという強いおじいさんの気持ちがいっぱいと思いました。

ぼくの夢は、サッカー選手になることですが、おじいさんのように、毎日の努力をわすれずに、何事もあきらめないで一生けん命がんばっていかうと思います。

Letter

ありがとうの手紙

優秀賞 中学生の部

お父さんへ

花園中学校1年(現2年) 内田 継乃 さん

手紙はいつもお母さんに書いているけど、お母さんと同じくらいお父さんに感謝しているので、お父さんに書きます。

お父さんは怒るとこわいけど、それでもお父さんの優しさが伝わってきます。

小三の時、私が骨折してお父さんがかけつけて、第一声で、「何やってんだ、ばかやろう!」と言われました。

でも、後からお母さんに聞いたら、入院中の私がかけた留守メッセージを何度も聞いていたそうですね。陰でのお父さんの優しさ伝わりました。ありがとう。

表現とは何か

小さな頃、何かを表現する方法として選択したものには絵だった。描くことが当たり前で、それは、感覚的には呼吸することと同じだった。深谷中学校では美術部に所属し、将来は漠然とそれを職業にと考えていた。しかし、

つ、授業で立った舞台の面白さが心の中を占めてきた。緊張はするが、それを楽しむ「楽力」が勝った。心は舞台に傾いていった。気がつけば、舞台「ロメオとジュリエット」のオーディションを受けている自分がいた。自分を知らなくてもらう

深 谷市内の自宅には、舞台が始まれば深夜まで帰れない。昨年の舞台では、高熱にうなされながらも、代役は立てなかった。舞台に立てないほうが辛かった。

日々いろいろな個性を演じ、多くの人に見ていただく。それは幾通りもの自分を知ってもらうことだ。舞台は、何物にも代え難い空間である。

夢七訓

- 夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 夢なかるべからず※

